

System Center Operations Manager 2007 SP1 用  
Microsoft® SharePoint® Foundation 2010   
管理パック ガイド

Microsoft Corporation

Copyright © Microsoft Corporation.All rights reserved.ユーザーは適用される著作権法に従う責任を負います。このドキュメントを使用するか、ドキュメントにフィードバックすると、下記の使用許諾契約書に同意したことになります。

このドキュメントは、情報提供のみを目的としており、完全に "現状有姿" で提供されます。このドキュメントは、ユーザーの特定の環境に基づいて特定のユーザー向けに Microsoft Corporation が構築したカスタマイズ サービスと情報を代用するものとして使用することはできません。法律で認められている範囲内で、マイクロソフトは、いかなる保証も行わず、明示、暗示、法令を問わず、すべての保証を放棄し、これらの資料またはその中に含まれる無形財産権に関連するいかなる種類の損害に対しても、一切責任を負わないものとします。

マイクロソフトは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途マイクロソフトのライセンス契約上に規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

URL やその他のインターネット Web サイトの参照を含むこのドキュメントの情報は、予告なく変更されることがあります。別途記載のない限り、このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のものです。

Microsoft、Active Directory、SharePoint、Windows、Windows NT、および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国または地域における登録商標または商標です。

記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

お客様はマイクロソフトに対して、このドキュメントに関連するいかなる提案、コメント、またはその他のフィードバック (以下、「フィードバック」) を提供する義務はありません。ただし、お客様がマイクロソフトに対してフィードバックを提供する場合は、方法や目的を問わず、フィードバックを使用、共有、および商品化する権利を無償でマイクロソフトに提供するものとします。また、フィードバックを含むマイクロソフトのソフトウェアやサービスの特定部分を使用し、あるいはこれと連携して使用する第三者の製品、テクノロジ、およびサービスに必要なあらゆる特許権を無償で第三者に供与するものとします。マイクロソフトがお客様のフィードバックを取り入れたことにより、マイクロソフトが第三者に対しソフトウェアまたはドキュメントの使用許諾が必要なライセンスの対象となるフィードバックについては、提供を控えてください。

目次

[クイック スタート 1](#_Toc248127410)

[この管理パックに含まれているファイル 6](#_Toc248127411)

[よく寄せられる質問 (FAQ) および既知の問題 6](#_Toc248127412)

[Operations Manager 2007 SP1 対応 Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パック 15](#_Toc248127413)

[Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックの要件 16](#_Toc248127414)

[管理パックを使用するための前提条件 16](#_Toc248127415)

[Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのセキュリティ上の考慮事項 18](#_Toc248127416)

[SharePoint 検出/監視アカウント実行プロファイルの構成 18](#_Toc248127417)

[エージェントレスの監視のサポート 23](#_Toc248127418)

[Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックの概要 23](#_Toc248127419)

[管理パックのOperations Manager 2007 SP1 への インポート 24](#_Toc248127420)

[Operations Manager 2007 SP1 エージェント用の サーバーの展開および構成 25](#_Toc248127421)

[エージェント イベント ログのサイズ変更 25](#_Toc248127422)

[クラスター サーバー監視用のイベント ログ レプリケーションの無効化 26](#_Toc248127423)

[Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのオプションの構成 26](#_Toc248127424)

[管理パックのカスタマイズ 27](#_Toc248127425)

[モニターまたはルールの無効化 33](#_Toc248127426)

[Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックの操作について 33](#_Toc248127427)

[Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックで検出されるオブジェクト 34](#_Toc248127428)

[正常性の監視について 34](#_Toc248127429)

[Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのモニターに ついて 34](#_Toc248127430)

[正常性のロールアップについて 38](#_Toc248127431)

[オペレーション コンソールでの正常性の表示方法 38](#_Toc248127432)

[主要な監視シナリオ 40](#_Toc248127433)

[ルールについて 41](#_Toc248127434)

[タスクについて 42](#_Toc248127435)

[オペレーション コンソールでの情報の表示 44](#_Toc248127436)

[Operations Manager 2007 SP1 のオペレーション コンソールについて 45](#_Toc248127437)

[[監視] ウィンドウでの状態およびパフォーマンス データの表示 45](#_Toc248127438)

[[作成] ウィンドウでの管理パックのビューの表示 48](#_Toc248127439)

[[作成] ウィンドウでの管理パックのルールの表示 49](#_Toc248127440)

[[作成] ウィンドウでの管理パックのオブジェクト検出の表示 50](#_Toc248127441)

[Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのレポートの使用 56](#_Toc248127442)

[レポートの選択 56](#_Toc248127443)

[レポートの説明 57](#_Toc248127444)

# クイック スタート

**必要な更新プログラムおよび修正プログラム**

適用可能なすべての更新プログラムが環境に適用されていることを確認してください。

いずれかの System Center Operations Manager サーバーまたはエージェント コンピューターが Windows Server 2008 ベースのコンピューター上で実行されている場合は、<http://support.microsoft.com/kb/953141/ja> の記事を参照してください。

次のページに記載されている、適用可能なすべての更新プログラムを適用します。

<http://support.microsoft.com/kb/954049/ja>

<http://support.microsoft.com/kb/951327/ja>

<http://support.microsoft.com/kb/952664/ja>

<http://support.microsoft.com/kb/951116/ja>

<http://support.microsoft.com/kb/953290/ja>

<http://support.microsoft.com/kb/951526/ja>

また、Operations Manager 2007 R2 で修正された問題の一覧も参照してください。Operations Manager 2007 SP1 を実行している場合、これらの更新プログラムの一部またはすべてを、ユーザーの使用環境に適用できる可能性があります。

<http://support.microsoft.com/kb/971410/ja>

System Center Operations Manager は Windows Server 2008 Service Pack 2 以降のオペレーティング システムにインストールすることを強くお勧めします。

**はじめに**

ここでは、管理パックをインポートし、Operations Manager 2007 SP1 を使用して監視するようにシステムを構成するための、環境設定の手順を説明します。

1. System Center Operation Manager 2007 SP1 サーバーをセットアップします。Operations Manager 2007 のインストールおよび構成の詳細については、『Operations Manager 2007 展開ガイド』(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb419281.aspx>) を参照してください。
2. ファーム内のすべてのサーバーを確認します。ファーム内のすべてのサーバーは、全体管理 Web サイトを使用して確認できます。
3. Operations Manager 2007 検出ウィザードを使用して、手順 2. で確認したサーバーに Operations Manager 2007 エージェントをインストールします。Operations Manager 2007 コンソールで管理されるエージェントにコンピューターを追加して、エージェントをインストールすることをお勧めします。Operations Manager 2007 エージェントのインストールの詳細については、『Operations Manager 2007 展開ガイド』(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb419281.aspx>) を参照してください。

**メモ:** ファーム コンピューターに既にエージェントがインストールされている場合は、この手順を省略できます。

1. Operations Manager 2007 アラート通知を構成します。Operations Manager 2007 ガイドの一般的なガイドラインを参照してください。
2. 管理パック ガイドの説明に従って、Windows Server オペレーティング システム、SQL Server、および Windows Server インターネット インフォメーション サービス (IIS) の各管理パックをインポートして構成することをお勧めします。これらの管理パックは、<http://www.microsoft.com/technet/prodtechnol/scp/catalog.aspx> から入手できます。必ず Windows 2008 および Windows 2008 R2 に対応する管理パックを使用してください。
3. Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パッケージをダウンロードしてインストールします。

**メモ:** 管理パックのインストール ファイルがダウンロードされるサーバーで 64 ビット版の Windows が実行されている場合、管理パックは既定で %ProgramFiles(x86)% フォルダーにインストールされます。

**メモ:** この管理パックの新しいバージョンを再インストールする場合は、再インストールする前に既存の SharePointMP.Config ファイルの名前を SharePointMP-OLD.Config に変更して、既存の変更内容を保存してから SharePointMP.Config ファイルを上書きするようにします。新しいバージョンの構成ファイルをインストールしたら、SharePointMP-OLD.Config ファイルで行った変更をすべて新しい SharePointMP.Config ファイルにコピーします。

1. 次のファイルが Operations Manager 2007 管理サーバー上の %ProgramFiles%\System Center Management Packs フォルダーにあることを確認します。
   * Microsoft.SharePoint.Foundation.2010.mp
   * SharePointMP.Config
2. Operations Manager 2007 コンソールで、Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パッケージをインポートします。
3. Operations Manager 2007 管理サーバーで、オペレーション コンソールを開きます。
4. [管理] タブで管理パックを展開します。
5. [管理パック] ノードを右クリックし、[管理パックのインポート] をクリックします。
6. %ProgramFiles%\System Center Management Packs フォルダーに移動し、Microsoft.SharePoint.Foundation.2010.mp をクリックします。
7. [インポート] をクリックし、[閉じる] をクリックします。
8. Operations Manager 2007 コンソールで、Microsoft SharePoint Foundation 2010 の検出および監視用に実行アカウントを作成します。
9. Operations Manager 2007 管理サーバーで、オペレーション コンソールを開きます。
10. [管理] タブで管理パックを展開します。
11. [管理] タブで [セキュリティ] ノードを展開し、[**実行アカウント**] を右クリックし、[**実行アカウントの作成**] をクリックします。
12. ウィザードに従って実行アカウントを作成し、アカウントの表示名を書き留めます。この名前は、次の手順で説明するように、SharePointMP.config ファイルで使用されます。実行アカウントに "SharePoint 検出/監視アカウント" という名前を付けると、次の手順で SharePointMP.config が更新されません。

**メモ:** 実行アカウントには、検出および監視の作業を行うのに十分な特権が必要です。SharePoint ファームの管理者グループのメンバーであり、SharePoint ファーム データベースをホストしすべての SharePoint データベースにアクセスするデータベース サーバー上の Administrators グループのメンバーであるアカウントを使用することをお勧めします。通常、SharePoint 2010 製品構成ウィザードの実行に使用されるアカウントは、必要な権限を持っています。

1. Operations Manager 2007 管理サーバーで管理タスクを実行して、Microsoft SharePoint Foundation 2010 の検出および監視を構成します。
2. SharePointMP.config ファイルを、正しい情報で更新します。
3. %ProgramFiles%\System Center Management Packs フォルダーにある SharePointMP.config ファイルを開きます。
4. 以下のようなセクションを探して、アカウントを前の手順で作成したものに更新します。また、ファーム内のすべてのコンピューターを監視用に追加します。詳細については、SharePointMP.config にある手順に従ってください。正規表現フィルターを使用して、SharePoint Foundation 2010 がインストールされているすべてのコンピューターが含まれていることを確認します。正規表現フィルターは、SharePointMP.config ファイル内の Machine 要素の Name 属性の値になります。

|  |
| --- |
| <Association Account="**DisplayName** of RunAS account" Type="Agent">  <Machine Name="agentMachineFilter1" />  <Machine Name="agentMachineFilter2" />  …  </Association> |

**メモ:** Name 属性の既定値 "" は、エージェントで管理されるコンピューターのすべてと一致します。SharePoint コンポーネントがインストールされていないコンピューターが含まれている場合、SharePoint がインストールされているかどうかを判断するために、いくつかのレジストリ チェックがそのコンピューターに対して実行されるという弊害があります。

1. 管理タスクを実行して検出および監視を構成します。
2. Operations Manager 2007 管理サーバーで、オペレーション コンソールを開きます。
3. [監視] タブに移動します。
4. [監視] の SharePoint Foundation 2010 フォルダーに移動します (必要に応じて展開します)。
5. SharePoint Foundation 2010 フォルダーの下の [**管理**] ノードをクリックします。
6. ツール バーの [アクション] メニューの [SharePoint Farm Group タスク] の [SharePoint 管理パックの構成] に移動します。
7. SharePointMP.config ファイルが正しい場所にあることを確認します。[**実行**] をクリックします。

**メモ:** このタスクには数分かかります。

1. エラーが発生しなかった場合はダイアログ ボックスを閉じます。

タスクがエラーなしで成功した場合は、次の手順に進みます。エラーが発生した場合は、エラーがなくなるまで、問題を修正してタスクを繰り返し実行します。

**メモ:** このタスクは、Windows PowerShell を使用して実行できます。Windows PowerShell を使用してこのタスクを実行する方法の詳細については、"Get-Task" および "Start-Task" コマンドレットのヘルプを参照してください。このヘルプを参照するには、[スタート] メニューまたは %ProgramFiles%\System Center Operations Manager 2007\Microsoft.EnterpriseManagement.OperationsManager.ClientShell.Console から Operations Manager PowerShell コンソールを起動して、「Get-Help Get-Task -full」または「Get-Help Start-Task -full」と入力します。

1. 前の手順が完了したら、検出処理が完了するまで 30 分から 1 時間待ちます。
2. 検出結果を確認します。
3. Operations Manager 2007 コンソールを開きます。
4. [**監視**] タブ (左下) に移動します。
5. SharePoint 2010 製品フォルダーに移動します (必要に応じて展開します)。
6. [**ダイアグラムの表示**] ノードに移動します。
7. ダイアグラム表示を展開して、SharePoint 管理者と一緒に、準備されているサービスがすべて検出されているかどうかを確認します。検出されていないものがある場合は、これが既知の問題かどうかと、回避策を FAQ で確認します。該当する項目がない場合は、再試行します。

Operations Manager 2007 のセットアップが完了し、SharePoint ファームを監視できるようになりました。

**メモ:** 構成が完了したら、ファームのアラームを監視します。一部のアラートでは、状態が "重大" に変わった後で、手動でリセットする必要があります。この処理を行わないと "重大" な状態のままになり、新しいアラートが送信されません。

# この管理パックに含まれているファイル

* Microsoft.SharePoint.Foundation.2010.mp
* Microsoft SharePoint Foundation 2010 Management Pack Guide.docx
* Microsoft SharePoint Foundation 2010 Management Pack Readme.htm
* SharePointMP.config
* EULA.RTF

# よく寄せられる質問 (FAQ) および既知の問題

* **1 セットの Operations Manager 2007 サーバーから監視できるファームの数を教えてください。**

1 セットの Operations Manager 2007 サーバーで 1 つの SharePoint ファームのみを監視することをお勧めします。

マルチホームのエージェント コンピューター (複数の Operations Manager 2007 管理グループで監視される SharePoint Server) の使用はお勧めしません。

* **この管理パックは Operations Manager 2007 SP1 と Operations Manager 2007 R2 の両方に対してサポートされますか。**

System Center Operations Manager 2007 コンソールで、1 つの Operations Manager 2007 エージェント サーバー上のすべての SharePoint Service アプリケーションに関して SharePoint の監視の状態が表示されない場合は、そのサーバーを再起動する必要があります。

* **システムのセットアップ後に管理タスクが正常に動作しなかったのはなぜですか。**

管理タスクを正常に実行するためには、Operations Manager 2007 RMS と管理サーバーを、構成後に少なくとも 1 回再起動する必要があります。

* **64 ビット版の Windows Server 2008 上で SharePointMP.config ファイルが見つからないのはなぜですか。**

64 ビット版の Windows Server 2008 では、SharePointMP.config ファイルが %ProgramFiles(x86)%\System Center Management Packs フォルダーにインストールされます。このファイルを %Program Files\System Center Management Packs フォルダーにコピーしてから管理タスクを実行する必要があります。この処理を行わないと、管理パックの構成中に "構成ファイルの読み込みに失敗しました" という内容のエラーが発生します。

* **削除した後でもコンポーネントが検出されるのはなぜですか。**

キャッシュに問題がある可能性があります。監視クラスのプロパティが変更された新しい管理パックをアップグレードまたはインポートすると、予期しない検出結果が得られる場合があります。テクニカル プレビュー版またはベータ版をインポートした後に新しいバージョンの管理パックをインポートした場合に、この問題が発生する可能性があります。これは、古いクラスがまだキャッシュ内にあるために発生します。clearcache スイッチと Microsoft.MOM.UI.Console.exe を使用してキャッシュをクリアする方法の詳細については、Operations Manager 2007 のドキュメントを参照してください。

* **この管理パックには、Microsoft の他のテクノロジ用の管理パックも含まれていますか。**

いいえ。この管理パックには、Windows オペレーティング システム、SQL Server、およびインターネット インフォメーション サービス (IIS) 用のモニターおよびルールは含まれていません。これらの管理パックをインストールして、エージェント コンピューターで実行されているサービスの監視に役立てることをお勧めします。これらの管理パックは <http://technet.microsoft.com/ja-jp/opsmgr/cc539535.aspx> で入手できます。

* **特定のインスタンスのモニターのパラメーターを上書きすることはできますか。**

モニターが[クック ダウン](http://www.authormps.com/dnn/Concepts/WorkflowBasics/CookDown/tabid/117/Default.aspx) モニターとして実装されている場合は、パラメーターを上書きすると、対象となるすべてのインスタンスに適用されます。特定のインスタンスのみを対象としているパラメーターは上書きできません。

この管理パックで影響を受けるモニターは次のとおりです。

* SPHA 可用性ルール モニター
* SPHA 構成ルール モニター
* SPHA パフォーマンス ルール モニター
* SPHA セキュリティ ルール モニター
* SPHA カスタム ルール モニター
* SPServer 上の SPHA 可用性ルール モニター
* SPServer 上の SPHA 構成ルール モニター
* SPServer 上の SPHA パフォーマンス ルール モニター
* SPServer 上の SPHA セキュリティ ルール モニター
* SPServer 上の SPHA カスタム ルール モニター
* **アラートに関する追加情報の入手方法を教えてください。**

アラートが表示され、通知とアラートの説明以外の追加情報が必要な場合は、正常性エクスプローラーをチェック アウトします。手順は次のとおりです。

1. オペレーション コンソールを起動します。
2. [**監視**] タブの [**アクティブなアラート**] ノードをクリックします。
3. 右のウィンドウで、表示する個々のアラートを右クリックし、[**開く**]、[**正常性エクスプローラー**] の順にクリックします。
4. [**正常性エクスプローラー**] ウィンドウで、表示する個々のエラーを選択します。
5. [**状態変更イベント**] タブの [**詳細**] セクションで、説明とイベント データを確認します。

* **SharePoint ファームに新しいエージェント コンピューターが追加された場合、SharePointMP.config ファイルを再度実行する必要はありますか。**

はい。

* **イベント ログのオーバーフロー防止機能が有効になっている場合、繰り返し発生するイベントの監視はどうなりますか。**

イベント ログのオーバーフロー防止機能が有効になっている場合、繰り返し発生するイベントの監視で予期しない動作が発生する可能性があります。繰り返し発生するイベントの監視は、一定のイベントが、特定の期間内に、特定の回数ログに記録された場合に実行するように設計されています。既定では、2 分間に同じイベント ID が 5 回ログに記録された後に、そのイベントの抑制が開始されます。最初の 5 回のイベントは、イベント ログに書き込まれます。イベント ログのオーバーフローが始まると、概要イベント (ULSFloodedEventSuppressedCritical など) が 5 分ごとにログに記録されます。この概要イベントには、別個に監視される独自の ID があります。

* **Operations Manager 2007 イベント 2023 が Operations Manager 2007 エージェント コンピューターに表示されるのはなぜですか。**

"正常性サービスは、最大許容サイズの 15 メガバイトを超えているアイテムを管理グループ contoso-SCOM management group の送信キューから削除しました。" という内容のメッセージが含まれるこのイベントが表示された場合は、次の手順に従って、エージェント コンピューター上のキャッシュをクリアしてください。

1. Operations Manager の正常性サービスを停止します。
2. %ProgramFiles%\System Center Operations Manager 2007\Health Service State\Health Service Store フォルダーに移動し、このフォルダー内のファイルをすべて削除します。
3. Operations Manager の正常性サービスを再起動します。

**メモ:** キャッシュをクリアする必要があります。エージェントの正常性サービスを再起動したり、Operations Manager 2007 を使用してエージェントを修復しても、この問題は解決されません。

* **Web アプリケーションまたはサイトの監視方法を教えてください。**

Web アプリケーションまたはサイトの監視方法の詳細については、「Operations Manager 2007 で Web アプリケーションの監視を開始する方法」(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb381370.aspx>) を参照してください。

**メモ:** データベース サーバーの監視用に SQL Server 管理パックもインストールされている場合は、アラートが重複して表示される可能性があります。重複を避けるには、次の手順を実行します。

1. オペレーション コンソールを開きます。
2. [**作成**] タブで [**管理パック オブジェクト**] を展開し、[**モニター**] をクリックします。
3. [**スコープの変更**] をクリックします。
4. [**すべてのターゲットを表示**] を選択し、[**すべてを選択**] をクリックして、[**OK.**] をクリックします。
5. [**検索対象**] に「Auto Update Flag」と入力し、[**検索開始**] をクリックします。
6. SQL 2005 と 2008 の両方の管理パックがインストールされている場合は、同じターゲットが 2 つ表示されます。SharePoint を使用していない方のバージョンの SQL サーバーに対応するルールを無効にします。
7. [Auto Update Flag] を右クリックして [**上書き**] をクリックし、タイプが SQL <2005/2008> DB のすべてのオブジェクトについて [**モニターの上書き**] を選択します。
8. [**アラートの生成**] チェック ボックスをオンにし、対応する [上書き値] を [偽] に設定します。
9. [**グループに含める管理パックの選択**] で Microsoft.SharePoint.  
   Foundation.2010.Override を選択し、[**OK**] をクリックします。
10. 手順 6. ～ 10. を繰り返して「Auto Update Flag」を「Auto Create Statistics Flag」に変更します。

* **一部のサービス モニターについて 2 つのアラートが表示されるのはなぜですか。**

次のサービスについては、2 つのモニターが作成されます。

* - SPAdminV4
* - SPSearch4
* - SPTimerV4
* - SPUserCodeV4
* - SPTraceV4
* - OSearch14

モニターの 1 つは Operations Manager 2007 モニターで、その他のモニターは SharePoint Health Analyzer (SPHA) ルール モニターです。サービス アプリケーションごとに 1 つのアラートのみを表示するには、全体管理 Web サイトを使用して、各サービスに対して SPHA ルールを無効にする必要があります。この処理を行うと、SPHA ルール モニターでアラートが表示されなくなります (**メモ:** Operations Manager 2007 モニターからのアラートは引き続き表示されます)。

* **管理パックをインストールしたときに "Ping Web Application Failed" モニターが失敗したのはなぜですか。**  
  "Ping Web Application Failed" モニターは、技術的にはネットワーク ping ではなく、HTTP GET 要求を介して Web アプリケーションの既定の URL へのアクセスを試みるモニターです。System Center Operations Manager コンソール コンピューターで HTTP REQUESTS へのアクセスが許可されない場合、このモニターは常に正常でない状態になります。  
  この問題が発生した場合は、System Center Operations Manager コンソールを使用してこのモニターを無効にすることをお勧めします。

このモニターを無効にするには、次の手順を実行します。

1. オペレーション コンソールを開きます。
2. [**作成**] タブで、[**管理パック オブジェクト**] ノードを展開して、[**モニター**] ノードをクリックします。
3. 右側のウィンドウの検索フィールドに「Ping Web Application Failed」と入力します。
4. [**Web アプリケーションに対する ping が失敗した**] モニターをダブルクリックします。
5. [**上書き**] タブの [**無効**] をクリックし、[**クラス <オブジェクトの種類> のすべてのオブジェクト**] をクリックします。

* **SyncTime について教えてください。**

SyncTime (開始時刻) は、検出と監視のプロパティです。SyncTime は、"HH:mm" の形式の文字列値です。SyncTime、IntervalSeconds、および管理パックのインポート時刻によって、特定のワークフローの正確な実行時刻が決まります。

たとえば、IntervalSeconds = 21600 (6 時間) で SyncTime = "01:15" の場合、ワークフローの実行時刻は午前 1:15、午前 7:15、午後 1:15、午後 7:15 のいずれかです。管理パックが午前 1:15 より後、午前 7:15 より前にインポートされた場合は午前 7:15 に開始され、管理パックが午後 1:15 より後、午後 7:15 より前にインポートされた場合は、午後 7:15 に開始されます。ただし、実際の開始時刻は、ネットワークの遅延など、他の要因によって変動することがあります。絶対に必要な場合を除き、SyncTime の既定の値を変更しないでください。

###### 既知の問題

* **問題:** テクニカル プレビュー版またはベータ版の管理パックがインストールされている場合に管理パックをインポートすると、インポート レベルのエラーが発生します。**解決策:** RTM 版の管理パックをインポートする前に、テクニカル プレビュー版またはベータ版の管理パックを削除またはアンインストールします。
* **問題:** パフォーマンス ビューとレポートでパフォーマンス データを使用できないか、Operations Manager 2007 イベント 10102 または 10103 が発生し "PerfDataSource でカウンター xxx を解決できませんでした (または見つけることができませんでした)" というメッセージが表示され、モジュールがアンロードされます。**解決策:** SharePoint パフォーマンス カウンターはすべて動的カウンターなので、現在、これらのカウンターのデータ収集に関するバグが Operations Manager 2007 にあります。Operations Manager 2007 では、SP1 および R2 用の修正プログラムがあります。これらの修正プログラムの詳細については、Microsoft サポートの記事 http://support.microsoft.com/kb/953141 を参照してください。
* **問題:** Operations Manager 2007 で複数の言語のエージェントを監視している場合、イベント、アラート、またはルールに関する、システム内の最初のイベントで、記述言語コンテキストが設定されます。Operations Manager 2007 のキャッシュが、そのコンテキストを保持します。**解決策:**  この問題を回避するには、イベント記述言語を設定するエージェント上で正常性サービスを再起動し、イベントが最初にこのエージェントから呼び出されることを確認します。
* **問題:** 繰り返しイベント タイプのモニターに対して上書き制御パラメーター "Count" が "1" に設定されると、新しい値が機能せず、モニターは正常性状態の変更に失敗します。**解決策:** これは Operations Manager 2007 の既知の問題です。現時点ではこの問題の解決策がありません。
* **問題:** データベースを ping するには "SQL データベース接続に失敗した" モニターを使用しますが、スタンドアロンの SharePoint 展開では機能しません。このモニターは、既定で無効になっています。**解決策:** スタンドアロン サーバーは SQL Server Express を使用しますが、SQL Server Express では既定でリモート アクセスが無効になります。このため、Rights Management Services (RMS) でデータベースを ping できません。スタンドアロン展開でこの監視を有効にするには、リモート アクセスを有効にするように SQL Server の設定を変更します。詳細については、Microsoft サポートの記事「リモート接続が許可されるように SQL Server 2005 を構成する方法」(<http://support.microsoft.com/kb/914277>) を参照してください。
* **問題:** コンピューターが Operations Manager 2007 コンソールの [不明なコンピューター] ビューに表示されます。[不明なコンピューター] ビューにコンピューターが表示された場合は、検出プロセスがそのコンピューターが所属する SharePoint ファームを識別できなかったことを意味します。コンピューターが [不明なコンピューター] ビューに表示される場合は、次に挙げる状況の 1 つ以上が原因になっていると考えられます。
* そのコンピューターが SharePoint 構成データベースにアクセスできない。
* そのコンピューターに SharePoint Foundation2010 がインストールされていない。
* サーバーの構成が失敗した。
* Operations Manager 2007 でそのサーバー用にエージェント プロキシが有効化されていない。
* Operations Manager 2007 エージェントにハート ビート障害があり、Operations Manager 2007 RMS と通信できない。この場合は、Operations Manager 2007 コンソールで、このコンピューターのアイコンが灰色の丸で表示されます。
* ネットワーク接続に問題がある。
* SharePoint Foundation 2010 が、構成またはデータベース サーバーに接続できない。
* 検出または監視に使用する実行アカウントに、SharePoint オブジェクト モデルに対するアクセス権限がない。これが問題の原因であるかどうかを確認するには、"SharePoint 管理パックの DebugTrace を設定する" タスク (このガイドの、タスクに関するセクションを参照) を実行し、管理タスクを再度実行し、サーバー上の Operations Manager イベント チャネルに移動して、ID = 0 のイベントを確認します。イベント ログでタイムスタンプを探して、SharePoint ULS トレース ログでこの問題が該当するかどうかを確認します。ULS トレース ログの詳細については、TechNet にある SharePoint Foundation 2010 ドキュメント (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/ee263910.aspx>) を参照してください。
* SharePoint Foundation 2010 検出サイクルの合間に、エージェントが SharePoint の実行プロファイルに関連付けられている。
* メイン サーバー (検出スクリプトの大部分を実行するサーバー) が、SharePoint 検出または監視の実行プロファイルに関連付けられていない。この場合、これらのスクリプトを使用して検出を行うすべてのサーバーが、不明グループに入ります。
* エージェント コンピューターが、前回の検出後にファームに追加された新しいサーバーである場合、次回のファーム検出までは不明グループに入ります。このバージョンの Operations Manager 2007 では、オンデマンド検出はサポートされていません。
* **問題:** 全体管理 Web サイトを使用して SPHA ルールを追加する場合、管理パックはこのルールを "null-HealthRuleType" と解釈し、SPHA ルールを監視できません。**解決策:** SPHA ルールを手動でコーディングして、SharePoint API を介してカスタム SPHA ルールを追加します。
* **問題:** コンピューターが System Center のダイアグラムの表示に表示されません。**解決策:** 可能性のある次の原因について調査します。
* コンピューターのリソース (RAM、CPU) が不足している。
* コンピューターに Operations Manager 2007 サーバーとの通信の問題がある。
* Windows PowerShell がインストールされてから、コンピューターが再起動されていない。コンピューターを再起動して、タスクを再実行します。
* SharePoint タスクの実行が完了した後に、コンピューターがファームに参加した。次回のファーム検出サイクルまで待つか、タスクを再実行します。

# Operations Manager 2007 SP1 対応 Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パック

Operations Manager 2007 SP1 対応の Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックは、Microsoft®Windows® SharePoint® Foundation 2010 環境の管理に役立ちます。

SharePoint Foundation 2010 に備えられている高度なグループ作業環境は、組織的、地理的な境界にまたがったさまざまな作業をサポートします。このような作業を行うグループが、この製品をグループ作業の課題の解決策と認識し、その採用を推進しました。この管理パックを使用すると、パフォーマンスや可用性に影響するこれらの環境のコンポーネントの正常性を監視することにより、識別された環境を容易に管理できます。監視対象のコンポーネントは次のとおりです。

* SharePoint Foundation 2010 関連のサービス (Timer、Tracing、および Search)
* SharePoint Foundation 2010 関連のイベント
* インターネット インフォメーション サービス関連のイベント (IIS からではなく SharePoint アプリケーションからのイベントのみ)
* Microsoft SQL Server™ データベース関連のイベント (SQL Server からではなく SharePoint アプリケーションからのイベントのみ)
* SharePoint Foundation 2010 サーバーのパフォーマンス

サービスの停止やパフォーマンス低下の原因となる問題が存在する場合、Microsoft System Center Operations Manager 2007 SP1 では、管理パックを使用して問題を検出し、問題の診断や修正ができるようにユーザーに通知します。

たとえば、管理パックで、ハード ディスクに十分な領域がないために SharePoint Foundation 2010 Search Service でインデックスを更新できないことが検出された場合、モニターの状態が "重大" に変更され、Operations Manager 2007 でアラートが生成されます。その後、[**アラート**] ビューを使用して、どのサーバーでディスク領域が不足しているかを確認できます。これを確認した後で、ドライブからファイルを削除するか、インデックス ファイルを別のドライブに移動できます。

# Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックの要件

ここでは、Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックを使用するために必要な前提条件と、注意が必要なセキュリティ上の考慮事項について説明します。

## 管理パックを使用するための前提条件

この管理パックを使用するための必要条件は次のとおりです。

* 管理パックを「[System Center Pack Catalog (System Center パック カタログのページ)](http://technet.microsoft.com/ja-jp/systemcenter/cc462790.aspx)」(http://technet.microsoft.com/ja-jp/systemcenter/cc462790.aspx) からダウンロードします。
* 1 つ以上の管理グループに System Center Operations Manager 2007 SP1 を展開していること。管理グループは、1 つの Operations Manager 2007 SP1 データベース、1 つ以上の Operations Manager 2007 SP1 管理サーバー、Operations Manager 2007 SP1 オペレーター コンソール、および管理対象のコンピューターで構成されます。
* 監視対象のすべてのコンピューターに Operations Manager 2007 SP1 エージェントを展開していること。
* SharePoint 展開のエージェント コンピューターが Windows Server 2008 である場合、マイクロソフト サポートの記事 (<http://support.microsoft.com/kb/953141/ja-jp>) で説明されているすべての修正プログラムが、これらのコンピューターにインストールされているかどうかを確認してください。

Operations Manager 2007 SP1 の展開方法の詳細については、『Operations Manager 2007 展開ガイド』(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb419281.aspx>) を参照してください。

Operations Manager 2007 SP1 エージェントの展開方法の詳細については、Operations Manager 2007 SP1 オンライン ヘルプの「How to Deploy the Operations Manager 2007 SP1 Agent for Agent-Management of Computers (コンピューターのエージェント管理用に Operations Manager 2007 SP1 エージェントを展開する方法に関するページ)」(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309622.aspx>) を参照してください。

## Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのセキュリティ上の考慮事項

ここでは、管理パックのセキュリティ上の考慮事項について説明します。この管理パックを正しく使用するには、次のことを知っておく必要があります。

* 正しい特権のある実行アカウントを使用して **SharePoint 検出/監視アカウント**実行プロファイルを構成する方法。
* 管理パックでエージェントレスの監視がサポートされているかどうか。

### SharePoint 検出/監視アカウント実行プロファイルの構成

管理パックで定義されているルール、モニター、タスク、および検出を使用するには、コンピューターで実行するための資格情報が必要です。既定では、これらの資格情報は、Operations Manager 2007 SP1 エージェントがインストールされている各サーバー上の既定のアクション アカウントに基づきます。

メモ

エージェントは、監視対象の各コンピューター上で実行されている Operations Manager 2007 SP1 サービスであり、そのコンピューターから情報を取得し、取得したデータにルールを適用して、ルールで定義されているアクションを実行します。

既定のアクション アカウントでは、Windows イベント ログ データおよびパフォーマンス データの監視や収集のような操作が実行されます。

既定のアクション アカウントには、管理パックの監視操作を実行するために必要な特権がない場合があるため、Operations Manager 2007 SP1 によって、実行プロファイルおよび実行アカウントを使用して必要な資格情報を提供できます。

管理パックが作成されると、その検出、ルール、モニター、およびタスクは実行プロファイルに関連付けられます。管理パックの検出、ルール、モニター、およびタスクは、**SharePoint 検出/監視アカウント**実行プロファイルに関連付けられます。

実行アカウントを使用すると、管理パックの検出、ルール、モニター、およびタスクを特定のコンピューターで実行するために必要な特権を指定できます。管理者は、実行アカウントを実行プロファイルに関連付けて、管理パックの検出、ルール、モニター、およびタスクを実行するために必要な資格情報を指定できます。

管理パックで、ルール、モニター、およびタスクを実行するために必要な資格情報を指定するには、次の構成を行う必要があります。

**管理パックの構成**

SharePoint 2010 ファームの管理者特権と、関連する Windows SharePoint Services データベースおよびアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) に対するアクセス権のあるユーザー アカウントに関連付けられた "SharePoint 検出/監視アカウント" 実行アカウント (この構成ファイルに列挙されているアカウントの DisplayName を選択) を作成します。たとえば、SharePoint Foundation 2010 の実行と SharePoint 製品とテクノロジ構成ウィザードの実行に使用されるアカウントは、必要な権限を持っています。

**自動:**

これは、Microsoft SharePoint Services 3.0 管理パックからの大きな変更点の 1 つです。Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックでは、タスクを実行することによって管理パックを構成できる構成ファイル (SharePointMP.config) が提供されています。

**メモ:**SharePointMP.configfile が、%ProgramFiles%\System Center Management Packs\ on the Operations Manager 2007 Root Management Server にあることを確認してください。

SharePointMP.config の内容:

<?xmlversion="1.0"encoding="utf-8"?>

<Configuration>

<Annotation>

これは Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックの管理タスク用の構成ファイルです。

タスクを実行するには、このファイルをルート管理サーバー コンピューターの %ProgramFiles%\System Center Management Packs に保存します。

</Annotation>

<AnnotationElement="Association">

Association 要素ではアカウントの関連付けを指定します。Association 要素は、0 個、1 個、または複数個指定できます。

- Account 属性では、実行アカウントを何に関連付けるかを指定します。このアカウントは、管理タスクを実行する前に存在する必要があります。

実行アカウントは、オペレーション コンソールの [管理] ウィンドウで作成できます。

- Type 属性の値は、"Agent" または "ManagementServer" のどちらかです。"Agent" は、アカウントの適用先が

エージェントで管理されたコンピューターであることを示します。"ManagementServer" は、アカウントの適用先が管理サーバーであることを示します。

- Machine ノードはそれぞれコンピューター フィルターの役割を果たします。いずれかのフィルターに一致する Machine は、プロファイル内のアカウントに関連付けられます。

- Machine ノードの Name 属性には、コンピューターの完全な名前に関する正規表現の値が含まれます。http://www.bing.com にアクセスして

"Regex Tutorial" を検索し、正規表現の詳細を参照してください。Name 属性を空のままにすると、すべてのコンピューター (エージェントで管理されたコンピューターまたは

管理サーバー、タイプによる) が一致します。

- 種類が "Agent" の場合、一致するコンピューター上で検出プロキシも有効になり、ファーム レベルの検出が正しく機能するようになります。

</Annotation>

<AssociationAccount="SharePoint Discovery/Monitoring Account"Type="Agent">

<MachineName="" />

</Association>

<AnnotationElement="WorkflowCycle">

WorkflowCycle 要素では、リスト ワークフローのスケジュールを指定します。WorkflowCycle 要素は、0 個、1 個、または複数個指定できます。ただし、

WorkflowCycle 要素が複数ある場合は、別々の WorkflowCycle 要素に同じワークフローを含めないようにする必要があります。

- BaseStartTime 属性には、"HH:mm" または整数の形式で値を指定できます。"HH:mm" 形式では、サイクルの繰り返しの基準となる開始時刻を

調整します。整数形式では、開始時刻が現在の時刻プラス指定した秒数に設定されます。注意点は、

整数値を設定した場合、管理タスクを再実行するたびに、サイクル開始時刻が再計算されることです。

- Length 属性では、各サイクルの長さ (秒数) を指定します。

- Spacing 属性では、あるワークフローのタイムアウト時刻から次のワークフローの開始時刻までの間隔 (秒数) を指定します。

たとえば、SPFarm.Discovery のタイムアウト値が 300 で、基準開始時刻が "14:00" だとします。Spacing が 60 の場合、SPService.Discovery の基準開始時刻は

14:00 + Ceiling[(300 + 60) / 60] = 14:06 に設定されます。Spacing を負の値に設定すると、ワークフローが重複し、パフォーマンスやメモリ不足の問題が発生する場合があります。

- WorkflowTimeout 属性 (オプション) が定義されている場合、Script ノードで上書きされない限りは、サイクル内の各ワークフローに適用されます。

設定しない場合は現在のタイムアウト値が有効になります。

- Workflow ノードの Id 属性は、";" で区切られた検出および監視の ID の一覧です (該当するワークフロー用)。

- Workflow ノードの MP 属性 (オプション) は、SharePoint Foundation MP で定義されていないワークフロー用です。

- Workflow ノードの Type 属性は、ワークフローのタイプを示します。"Discovery" と "Monitor" のみがサポートされています。

- Workflow ノードの Times 属性では、1 つのサイクル内でワークフローを何回実行する必要があるかを指定します。

0 または負の値に設定すると、ワークフローは無効になります。

- Workflow ノードの Timeout 属性 (オプション) を定義すると、ワークフローのタイムアウトが上書きされます。

</Annotation>

<WorkflowCycleBaseStartTime="+300"Length="28800"Spacing="60">

<WorkflowId="WSSInstallation.Discovery"Type="Discovery"Times="1" />

<WorkflowId="SPFarm.Discovery"Type="Discovery"Times="1" />

<WorkflowId="SPService.Discovery"Type="Discovery"Times="4" />

<WorkflowId="SPSharedService.Discovery"Type="Discovery"Times="4" />

<WorkflowId="SPHARule.Discovery"Type="Discovery"Times="1" />

<WorkflowId="SPHARuleMonitor.Availability;SPHARuleMonitor.Security;SPHARuleMonitor.Performance;SPHARuleMonitor.Configuration;SPHARuleMonitor.Custom"Type="Monitor"Times="8" />

<WorkflowId="SPHARuleMonitor.SPServer.Availability;SPHARuleMonitor.SPServer.Security;SPHARuleMonitor.SPServer.Performance;SPHARuleMonitor.SPServer.Configuration;SPHARuleMonitor.SPServer.Custom"Type="Monitor"Times="8" />

</WorkflowCycle>

</Configuration>

**メモ:**ファイルの更新後は、必ず管理タスクを実行してください。

実行プロファイルおよび実行アカウントの詳細については、以下を参照してください。

* 「Run As Profiles and Run As Accounts in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 の実行プロファイルおよび実行アカウントに関するページ)」(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309667.aspx>)
* Operations Manager 2007 SP1 オンライン ヘルプの「Running a Task, Rule, or Monitor with Run As in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 で実行アカウントを使用してタスク、ルール、またはモニターを実行することに関するページ)」(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309594.aspx>)

### エージェントレスの監視のサポート

Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックには、エージェントレスの監視のルールは含まれていません。

# Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックの概要

Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックをインストールするには、管理サーバーにファイルをダウンロードしてから、管理パックを Operations Manager 2007 SP1 にインポートする必要があります。管理パックをインストール後に、SharePoint Foundation 2010 サーバー上で、Operations Manager 2007 SP1 エージェント用のオプションの構成を作成できます。

## 管理パックのOperations Manager 2007 SP1 への インポート

procedure_ddMicrosoft SharePoint Foundation 2010 管理パックをインポートするには

1. Operations Manager 2007 SP1 管理グループの Operations Manager 2007 SP1 Administrators ロールのメンバーであるアカウントを使用して管理サーバーにログオンします。
2. オペレーション コンソールで、左下側にある [**管理**] ワークスペース ボタンをクリックします。
3. [管理] ツリー ビューで、[**管理パック**] ノードを右クリックして、[**管理パックのインポート**] をクリックします。[**インポートする管理パックの選択**] ダイアログ ボックスが開きます。
4. 必要に応じて、Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックが配置されているディレクトリに移動します。
5. **Microsoft.SharePoint.Foundation.2010.mp** をクリックして、[**開く**] をクリックします。[**管理パックのインポート**] ダイアログ ボックスが開きます。
6. [**インポート**] をクリックします。インポート処理が完了すると、ダイアログ ボックスには、インポートの成功または失敗を示すアイコンが、管理パックの横に表示されます。
7. [**閉じる**] をクリックします。オペレーション コンソールの [**管理パック**] ウィンドウに、Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックが表示されます。

管理パックをインポートしたら、管理タスクを実行して、このガイドの「SharePoint 検出/監視アカウント実行プロファイルの構成」の説明に従って SharePoint ファームの検出を有効にする必要があります。また、ルールをカスタマイズしたり無効にすることもできます。管理パックのカスタマイズやルールの無効化の詳細については、このガイドの「Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのオプションの構成」を参照してください。

## Operations Manager 2007 SP1 エージェント用の サーバーの展開および構成

監視対象の SharePoint Foundation 2010 サーバーごとに、Operations Manager 2007 SP1 エージェントが展開されていることを確認することは重要です。エージェントの展開方法の詳細については、Operations Manager 2007 SP1 オンライン ヘルプの「How to Deploy the Operations Manager 2007 SP1 Agent for Agent-Management of Computers (コンピューターのエージェント管理用に Operations Manager 2007 SP1 エージェントを展開する方法に関するページ)」(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309622.aspx>) を参照してください。

Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックと共に Operations Manager 2007 SP1 エージェントを使用するように各サーバーを構成する手順は次のとおりです。

### エージェント イベント ログのサイズ変更

監視を最適の状態にするために、エージェントのイベント ログを、それぞれ 10 MB 以上のサイズに変更することをお勧めします。Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックでは、次のイベント ログを使用してサーバーを監視します。

* Windows アプリケーション イベント ログ
* Microsoft SharePoint Foundation 2010\Operational イベント ログ

procedure_ddエージェントのイベント ログのサイズを変更するには:

1. Operations Manager 2007 SP1 エージェントがインストールされている各サーバーで、イベント ビューアーを開きます。
2. イベント ビューアーのコンソール ツリーで、[**アプリケーション**] をクリックし、[**操作**] メニューの [**プロパティ**] をクリックします。
3. [**全般**] タブの [**最大ログ サイズ (KB)**] で、ログ サイズを 10240 KB 以上に指定します。
4. 新しい設定を有効にするには、[**ログの消去**] をクリックします。現在ログに含まれている情報を保持する場合は、消去する前に元のログを保存するかどうか確認するメッセージが表示されたときに [**はい**] をクリックします。
5. [**OK**] をクリックします。
6. Microsoft SharePoint Foundation 2010 \Operational イベント ログに関しても上記の処理を繰り返します。

### クラスター サーバー監視用のイベント ログ レプリケーションの無効化

SharePoint Foundation 2010 のコンポーネントには、クラスター サーバー上にインストールできるものもあります。既定では、Windows 2008 Enterprise Server または Windows 2008 Datacenter を実行しているサーバー上にクラスターをインストールすると、クラスター内の 1 つのノードのイベント ログに記録されたイベントは、他のノードのイベント ログにも表示されます。Operations Manager 2007 SP1 を使用して、このようなクラスター サーバーを監視するには、クラスター内の各サーバー上で、レプリケーションを無効にする必要があります。

# Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのオプションの構成

この管理パックは、それぞれの Operations Manager 2007 SP1 サーバー上で、管理者にとって重要な環境の特定の点を重点的に監視するようにカスタマイズできます。管理パックをカスタマイズするには、ルールの既定の設定を上書きして再構成するか、ルール全体を無効にします。

大規模な分散したネットワークでは、SharePoint Foundation 2010 を複数の異なる管理グループに展開する場合があります。管理グループごとに独自の Operations Manager 2007 SP1 管理サーバーが含まれるため、管理パックを管理グループごとにインストールして、その管理グループの環境に必要な情報のみの収集に重点を置くようにカスタマイズできます。

SharePoint Foundation 2010 管理パックなど、インポートされた管理パックは封印されているため、上書き設定は保存できません。代わりに、Operations Manager 2007 SP1 では、封印されていない既定の管理パックに上書きの内容が保存され、これが Operations Manager 2007 SP1 インストールの一環としてインポートされます。封印された管理パックのファイル拡張子は .mp です。これらは、編集できないバイナリ ファイルです。封印されていない管理パックのファイル拡張子は .xml です。これらは、編集できる XML ファイルです。

封印された管理パックに対する上書きは、既定の管理パックではなく、新しい封印されていない管理パックに保存することをお勧めします。その理由は次のとおりです。

* テスト環境および運用前環境で作成された上書きを運用環境にエクスポートする処理が簡単になります。
* 既定の管理パックを削除せずに、元の管理パックを削除できます。
* 上書きを別の管理グループにエクスポートできます。

important_dd重要

[SharePoint 管理パックの構成] タスクを実行すると、上書き管理パック Microsoft.SharePoint.Foundation.2010.Override が自動的に作成されます。

Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックの上書き値はすべて、上書き管理パックに保存することをお勧めします。

上書きの内容を上書き管理パックに保存しない場合、上書きの内容は自動的に既定の管理パックに保存されます。

## 管理パックのカスタマイズ

管理パックをカスタマイズするには、次の 4 段階の手順を使用します。

1. 上書き保存用の、新しい封印されていない管理パックを作成します。
2. Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックを上書きして、カスタマイズの内容を新しい封印されていない管理パックに保存します。
3. 上書きの内容を含む新しい管理パックをエクスポートします。
4. この新しい管理パックおよび Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックを、別の管理グループにインポートします。

この 4 段階の手順の詳細は、このドキュメントで後ほど説明します。

重要

Operations Manager 2007 SP1 で、封印されていない管理パックに保存されている上書き内容を使用するには、封印されていない管理パックと、上書きの基となった封印された管理パックの両方を、別の管理グループにインポートする必要があります。

封印された管理パックおよび封印されていない管理パックの詳細については、Operations Manager 2007 SP1 オンライン ヘルプの「Management Pack Formats (管理パックの形式に関するページ)」(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb381260.aspx>) を参照してください。

管理パックのカスタマイズおよび既定の管理パックの詳細については、「About Management Packs in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 の管理パックに関するページ)」(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309721.aspx>) を参照してください。

procedure_dd上書き用の新しい管理パックを作成するには:

1. オペレーション コンソールで、[管理] ボタンをクリックします。
2. [**管理**] ウィンドウで、[管理パック] を右クリックして、[管理パックの作成] をクリックします。管理パックの作成ウィザードが開きます。
3. [**全般プロパティ**] ページで、[**名前**] に管理パックの名前を、[**バージョン**] に正しいバージョン番号を、[**説明**] に簡単な説明を入力します。
4. [次へ] をクリックします。[**ナレッジ**] ページが開きます。
5. [**編集**] をクリックして、この管理パックのナレッジ項目の概要を作成します。管理パックの目的に関する情報を、この項目に含めます。
6. 項目が完成したら、[**ファイル**] をクリックして [**MOM に保存**] をクリックします。
7. 管理パックの作成を完了するには、[**作成**] をクリックします。

note_ddメモ

上書きの内容を保存する管理パックを作成するときは、既定の設定を持つ管理パックの名前を含む管理パックの名前を使用する必要があります。たとえば、Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックの既定の設定を上書きするには、"Microsoft SharePoint Foundation 2010 Overrides" という名前の管理パックを作成できます。

important_dd注意

この新しい管理パックに保存する上書き内容によって、元の管理パックの既定の設定が置き換えられます。

procedure_ddルールを上書きしてカスタマイズの内容を新しい管理パックに保存するには:

1. オペレーション コンソールで、[**作成**] をクリックします。
2. [**作成**] ウィンドウで、[**管理パック オブジェクト**] を展開して、[**ルール**] をクリックします。
3. [**ルール**] ウィンドウで、上書きするルールをクリックします。
4. [**OperationsManager**] ツール バーで、[**上書き**] をクリックして、[**ルールの上書き**] をポイントします。このルールの上書き対象として、特定のタイプのオブジェクトまたはカテゴリ内のすべてのオブジェクトを選択できます。上書き対象のカテゴリまたはオブジェクト タイプを選択すると、[**上書きのプロパティ**] ダイアログ ボックスが表示され、該当するルールに関して上書きが可能なパラメーターを表示できます。その後、ルールに含まれている個々のパラメーターを上書きするかどうかを選択できます。
5. [**上書きのプロパティ**] ダイアログ ボックスで、上書きするパラメーターごとに、[**上書き**] 列の該当するチェック ボックスをオンにします。
6. 変更を完了したら、[**グループに含める管理パックの選択**] ドロップダウン ボックスで、上書き用に作成した管理パックをクリックします。
7. [**OK**] をクリックします。
8. カスタマイズするルールごとに、この処理を繰り返します。

important_dd重要

上書きを作成するには、高度なオペレーターのユーザー権限が必要です。

詳細については、Operations Manager 2007 SP1 オンライン ヘルプの次のトピックを参照してください。

「モニタを上書きする方法」  
(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309455.aspx>)

「Overrides in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 での上書きに関するページ)」  
(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb381198.aspx>)

「上書きを使用して監視する方法」  
(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309719.aspx>)

procedure_dd上書きの内容を含む新しい管理パックをエクスポートするには:

1. オペレーション コンソールで、[管理] ボタンをクリックします。
2. [**管理**] ウィンドウで、[**管理パック**] をクリックします。インポートされた管理パックの一覧が表示されます。
3. [**管理パック**] ウィンドウで、上書きを含む管理パックを右クリックして、[**管理パックのエクスポート**] をクリックします。
4. [**名前を付けて保存**] ダイアログ ボックスで、管理パックのパスとファイル名を入力するか、[**参照**] をクリックして別の保存先ディレクトリを指定し、[**保存**] をクリックします。

この管理パックは Operations Manager 2007 SP1 XML 管理パック ファイルとして保存され、別の管理グループにインポート可能になります。

note_ddメモ

エクスポートできるのは、封印されていない管理パックのみです。

procedure_dd新しい管理パックおよび Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックを、別の管理グループにインポートするには:

1. 管理グループの Operations Manager 管理者ロールのメンバーであるアカウントを使用して、コンピューターにログオンします。
2. オペレーション コンソールで、[**管理**] ボタンをクリックします。
3. [**管理パック**] ノードを右クリックして、[**管理パックのインポート**] をクリックします。[**インポートする管理パックの選択**] ダイアログ ボックスが開きます。
4. 必要に応じて、Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックが配置されているディレクトリに移動します。
5. **Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パック**をクリックして、[**開く**] をクリックします。[**管理パックのインポート**] ダイアログ ボックスが開きます。
6. [**管理パックのインポート**] ダイアログ ボックスで、[**追加**] をクリックします。[**インポートする管理パックの選択**] ダイアログ ボックスが再び開きます。
7. 上書き内容を含む管理パックをクリックして、[**開く**] をクリックします。
8. [**管理パックのインポート**] ダイアログ ボックスで、[**インポート**] ボタンをクリックします。
9. インポート処理が完了したら、[**閉じる**] ボタンをクリックします。

## モニターまたはルールの無効化

特定の警告、パフォーマンス データ、その他の重要でないイベントを収集しない場合があります。たとえば、次のような場合です。

* 衛星リンクをまたがった展開
* 大規模なブランチ オフィスへの展開
* 非常に低速のワイド エリア ネットワーク (WAN) リンクを使用した展開
* アラートがグローバル ネットワーク運用センターに転送される展開
* 警告や情報メッセージが不要な状況

**メモ:** ルールを無効にすると、レポート用のデータが不十分になる場合があります。たとえば、特定のモニターのアラートを無効にすると、そのアラートはアラート数にカウントされないため、アラート数上位のレポートに反映されません。

このような状況では、通知を受ける必要のないデータを生成するルールを無効にできます。詳細については、Operations Manager 2007 SP1 オンライン ヘルプの「How to Disable a Monitor or Rule Using Overrides (上書きを使用してモニターまたはルールを無効にする方法に関するページ)」(<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309583.aspx>) を参照してください。

# Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックの操作について

ここでは、管理パックで検出されるオブジェクト、正常性情報のロールアップ方法、主な監視シナリオ、正常性を定義して示す方法について説明します。

## Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックで検出されるオブジェクト

この管理パックの目的は、ファーム内にある SharePoint Foundation 2010 コンポーネントを検出および監視することです。この管理パックでは、これらのオブジェクトが検出されます。

## 正常性の監視について

この管理パックの最も重要な機能の 1 つは、Microsoft SharePoint Foundation 2010 環境の正常性を監視できることです。この管理パックでは、SharePoint Foundation Search V4 (SPSearch4) サービスなど、監視対象のコンポーネントの正常性状態を継続的に評価します。

メモ

モニターとは、イベント、パフォーマンス データ、およびその他の情報を使用して監視対象のコンポーネントの正常性状態を評価する、管理パックの機能です。

ここでは、Operations Manager 2007 SP1 のモニターの種類について説明し、管理パックに含まれているモニターの一覧を示し、SharePoint Foundation 2010 コンポーネントのモニターのロールアップによって全体的な正常性を判断する方法を説明して、オペレーション コンソールでの正常性の表示方法を説明します。

### Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのモニターに ついて

Operations Manager 2007 SP1 では、さまざまな種類のモニターを使用できます。この管理パックには、次の 3 種類のモニターが含まれています。

* ユニット モニター
* 全体ロールアップ モニター
* 依存関係モニター

**ユニット モニター**は、特定のカウンター、イベント、スクリプト、およびサービスの監視に使用します。ユニット モニターは、全体ロールアップ モニターにロールアップされます。

**ユニット モニターの種類の定義:**

* **イベント手動リセット モニター: このモニターでは、イベント ログで特定のイベントを監視します。イベントが発生すると、このモニターの正常性は、定義されている正常性状態に変更されます。管理者がオペレーション コンソールを使用して別の正常性状態に手動で切り替えるまでは、モニターはその正常性状態のままになります。**
* **イベント タイマー リセット モニター: このモニターでは、イベント ログで特定のイベントを監視します。イベントが発生すると、このモニターの正常性は、定義されている正常性状態に変更されます。定義されている時間が経過すると、モニターの正常性は新しい正常性状態にリセットされます。**
* **繰り返しイベント手動リセット モニター: このモニターでは、イベント ログで特定のイベントを監視します。イベントが複数回発生する場合、しきい値に達したときに、このモニターの正常性は、定義されている正常性状態に変更されます。管理者がオペレーション コンソールを使用して別の正常性状態に手動で切り替えるまでは、モニターはその正常性状態のままになります。**
* **繰り返しイベント タイマー リセット モニター: このモニターでは、イベント ログで特定のイベントを監視します。イベントが複数回発生する場合、しきい値に達したときに、このモニターの正常性は、定義されている正常性状態に変更されます。定義されている時間が経過すると、モニターの正常性は新しい正常性状態にリセットされます。**
* **サービス モニター: このモニターでは、Windows サービスを監視します。コンポーネントが Windows サービスである場合、このモニターでサービスの状態を監視できます。**
* **単純しきい値パフォーマンス モニター: このモニターでは、単一のパフォーマンス カウンターしきい値を監視します。パフォーマンス カウンターがしきい値を超えると、このモニターの正常性状態は変更されます。**
* **上下限しきい値パフォーマンス モニター: このモニターでは、単一のパフォーマンス カウンターしきい値を監視します。パフォーマンス カウンターが定義されているしきい値を超えるか下回ると、このモニターの正常性状態は変更されます。**
* **累積しきい値パフォーマンス モニター: このモニターでは、一定の期間内にパフォーマンス カウンターが定義されているしきい値に複数回達するかどうかを監視します。そのしきい値に達した場合、モニターの正常性状態は変更されます。**

**全体ロールアップ モニター**には、ユニット モニター、依存性ロールアップ モニター、またはその他のオブジェクトを対象としている全体ロールアップ モニターの状態が反映されます。通常は、全体ロールアップ モニターを使用して複数のモニターを 1 つのモニターにグループ化してから、そのモニターを使用して正常性状態を設定し、アラートを生成します。

**依存性ロールアップ モニター**では、ホストまたは含有の関係によってリンクされているオブジェクトから、正常性状態をロールアップします。特定のターゲットのホストおよび含有の関係は、ほとんどの管理パックで定義されています。依存性ロールアップ モニターを使用すると、特定のオブジェクトの正常性状態を、ホストまたは含有されているコンポーネントの正常性状態に依存させることができます。

important_dd重要

次の集合モニターの正常性状態は、エラーまたは警告の状態が表示されたら、手動でリセットする必要があります。

* Security Token Service の証明書が見つからない
* Security Token Service が署名資格情報を作成できない
* クレーム認証がエンドポイントを確立できない
* クレーム認証プロバイダー例外エラー
* ビジネス データ カタログ サービス アプリケーションにアクセスできない
* ビジネス データ カタログ メタデータ データベース例外
* ビジネス データ カタログ データベース バックエンド接続性例外
* ビジネス データ カタログ Web サービス バックエンド接続性例外
* 権限がありません
* データベースがいっぱいです
* 製品ヘルプ ライブラリ サイト コレクションの権限を最新の状態に更新できない
* Windows SMTP サービスが実行されていない
* SharePoint リストが電子メールを受信できない
* Mail Service が電子メールを配信できない
* Usage Service がログ ディレクトリにアクセスできない
* Usage Service タイマー ジョブが失敗した
* Topology Service を使用できない
* 共有サービス アプリケーション エンドポイントを使用できない
* SharePoint: 利用状況ログの空き容量がない
* トレース ログの空き容量がない
* Web アプリケーションのアプリケーション プール アカウントが有効でない
* 資格情報展開タイマー ジョブが失敗した
* アプリケーション サーバー管理サービス タイマー ジョブが失敗した

詳細については、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb381404.aspx> にある Operations Manager 2007 SP1 のオンライン ヘルプの「About Monitors in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 のモニターに関するページ)」を参照してください。

procedure_dd管理パックのモニターを表示するには:

1. オペレーション コンソールで、[**作成**] をクリックします。
2. [**作成**] ウィンドウで、[**管理パック オブジェクト**] を展開して、[**モニター**] をクリックします。[**モニター**] ウィンドウにモニターが表示されます。各モニターをクリックすると、[**モニターの詳細**] ウィンドウで詳細情報を確認できます。

### 正常性のロールアップについて

管理パックでは、SharePoint Foundation 2010 のコンポーネントは階層として扱われます。各レベルの正常性は、下位のレベルの正常性に依存します。

ユニット モニターの状態が変化すると、その上位レベルにあるモニターの状態も変化します。つまり、下位レベルの正常性は、上位レベルの正常性にロールアップします。

### オペレーション コンソールでの正常性の表示方法

この管理パックでは、SharePoint Foundation 2010 環境の正常性を監視します。Operations Manager 2007 SP1 では、管理されるコンピューターの状態が継続的に更新され、その状態はオペレーション コンソールの [監視] ウィンドウの [**状態**] ビューに表示されます。表 3 に、サーバーの状態を示すために [**状態**] ビューで使用されるアイコンを示します。

表 3. [状態] ビューで使用されるアイコン

|  |  |
| --- | --- |
| GreenCheck32x32 | すべてのサービスが正常に実行され、サーバーが使用できることを示しています。 |
| AlertSeverity_Warning32x32 | 一部のサービスで問題が発生しているか、サーバー自体が使用できない可能性があることを示しています。 |
| RedX32x32 | 使用できないサービスがあるか、サーバー自体が使用できないことを示しています。 |

## 主要な監視シナリオ

この管理パックで収集される情報の種類は、監視シナリオによって異なります。ここでは、主要な監視シナリオについて説明します。

表 4. Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックの監視シナリオ

| **シナリオ** | **説明** |
| --- | --- |
| Active Directory® | アプリケーション プール アカウントを対象に、Active Directory に対してユーザーの追加または読み込みを行うための適切なアクセス許可があるかどうかを監視します。 |
| 認証 | 認証プロバイダーの不適切な構成が原因で問題が発生していないかどうかを監視します。 |
| バックアップと復元 | バックアップ エラーとごみ箱のクォータを監視します。 |
| データベース | SQL データベース サーバーとの接続に関する問題がないかどうかを監視します。 |
| 診断システム | トレース インフラストラクチャの正常性に関連するイベントを監視します。 |
| 電子メール | SMTP サーバーとの接続を監視します。 |
| IIS | アプリケーション プール アカウントを対象に、ディスクまたはレジストリ キーへの書き込みに関する問題がないかどうかを監視します。 |
| パフォーマンス | パフォーマンス カウンターを監視します。 |
| 検索 | Search Service の適切な動作に大きく影響するイベントを監視します。 |
| 状態監視とサービス検出 | 次のような Windows NT® サービスの可用性を監視します。   * Microsoft SharePoint Foundation 2010 Timer * Microsoft SharePoint Foundation 2010 Tracing * Microsoft SharePoint Foundation 2010 Search * Microsoft Internet Information Service |
| Timer | Timer Service に関連付けられたイベントを監視します。 |
| Web パーツとイベント ハンドラー | イベント ハンドラーと安全なコントロールのアセンブリ パスの読み込みの失敗に関連するイベントを監視します。 |

## ルールについて

管理パックのルールは、監視対象コンポーネントが生成するデータの収集に利用されます。これらのルールは、監視対象コンポーネントに基づいて、いくつかのカテゴリに分類されます。管理パックのルールは、概念的に次のように分類できます。

• Search Serviceのルール

• SQL Server データベースのルール

• システム パフォーマンスのルール

• Web サーバー パフォーマンスのルール

• Windows サービスのルール

• Microsoft SharePoint Foundation 2010 のルール

procedure_dd**管理パックのルールを表示するには:**

1. オペレーション コンソールで、[**作成**] をクリックします。
2. [**作成**] ウィンドウで、[**管理パック オブジェクト**] を展開して、[**ルール**] をクリックします。[**ルール**] ウィンドウにルールが表示されます。
3. 各ルールをクリックすると、[**ルールの詳細**] ウィンドウで詳細情報を確認できます。

詳細については、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb381367.aspx> にある Operations Manager 2007 SP1 のオンライン ヘルプの「Rules in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 のルールに関するページ)」を参照してください。

## タスクについて

タスクとは、監視されているコンピューターで実行できる、定義済みのコマンド、スクリプト、またはコードです。タスクは、主に、診断や修正に使用されます。また、監視環境の構成に使用されることもあります。この管理パックには、表 5 に示すタスクが含まれています。

表 5. Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのタスク

|  |  |
| --- | --- |
| **タスク名** | **説明** |
| SharePoint 管理パックの構成 | 管理パックの構成処理を行うタスクです。上書き管理パックの確保、"実行 (RunAs)" アカウントとサーバーの関連付け、プロキシ設定の有効化、および、検出の開始操作を実行します。 |
| SharePoint 管理パックの DebugTrace の設定 | SharePoint 管理パック用の検出および監視スクリプトに対して、DebugTrace を有効または無効にします。 |
| Admin Service の再開 | Windows SharePoint Services Administration V4 (SPAdminV4) サービスを再起動するタスクです。 |
| Timer Service の再開 | Windows SharePoint Services Timer V4 (SPTimerV4) サービスを再起動するタスクです。 |
| Search Service の再開 | SharePoint Server Search 14 (OSearch14) サービスを再起動するタスクです。 |
| HelpSearch Service の再開 | SharePoint Foundation Search V4 (SPSearch4) サービスを再起動するタスクです。 |
| UserCode Service の再開 | Windows SharePoint Services User Code Host V4 (SPUserCodeV4) サービスを再起動するタスクです。 |
| SPTrace Service の再開 | Windows SharePoint Services Tracing V4 (SPTraceV4) サービスを再起動するタスクです。 |

"SharePoint 管理パックの DebugTrace の設定" タスクは、Windows PowerShell スクリプト ベースの検出と SPHA モニターを実行するエージェント コンピューターのデバッグ トレースを有効にします。既定では、これは無効にされています。有効にされると、スクリプト ベースの検出とモニターが、デバッグ トレース情報をすべてのエージェント コンピューターの Operations Manager チャネルにあるイベント ログに書き込みます。この場合のすべてのデバッグ トレース イベントのイベント ID は 0 になります。通常、イベントの説明には、スクリプト名、開始および停止情報、および各スクリプトの実行にかかった時間が含まれます。以下は、サンプルのデバッグ トレース イベントです。

[Debug] C:\Program Files\System Center Operations Manager 2007\Health Service State\Monitoring Host Temporary Files 7\2\WSSBPAMonitor.ps1

Current User:[ユーザー名]

Current PID: 1584

start time: 10/26/2009 1:03:09 PM

stop time: 10/26/2009 1:04:21 PM

time taken: 71046.3459

Windows PowerShell script WSSBPAMonitor.ps1 execution ended.

**Operations Manager 2007 コンソールから DebugTrace の設定タスクを実行するには:**

1. [監視] を選択し、[SharePoint 2010 製品] を選択して、[管理] ビューを選択します。
2. [**アクション**] パネルで、"SharePoint 管理パックの DebugTrace を設定する" という名前のタスクをクリックします。[タスクの実行] ウィンドウが表示されます。
3. デバッグ トレースを有効にする (既定のオプション) には、[**実行**] をクリックします。デバッグ トレースを無効にするには、[**上書き**] をクリックします。
4. 表示されたダイアログ ボックスで、[有効にする] パラメーターの値を [偽] に設定します。
5. [**上書き**] をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。
6. [**実行**] をクリックします。
7. [タスクの状態] ウィンドウでタスクの終了を確認したら、[タスクの出力] を参照して、タスクが正常に完了していることを確認します。
8. [**閉じる**] をクリックします。

Microsoft SharePoint Foundation 2010 と Microsoft SharePoint 2010 製品の両方の管理パックをインポートしている場合、このタスクでは、両方の管理パックに含まれるすべての検出とスクリプト モニターのトレースが有効になります。そうでない場合は、Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのトレースのみが有効になります。

詳細については、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309743.aspx> にある Operations Manager 2007 SP1 のオンライン ヘルプの「Tasks in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 のタスクに関するページ)」を参照してください。

procedure_dd管理パックのタスクを表示するには:

1. オペレーション コンソールで、[**作成**] をクリックします。
2. [**作成**] ウィンドウで、[**管理パック オブジェクト**] を展開して、[**タスク**] をクリックします。[**タスク**] ウィンドウにタスクが表示されます。[**管理パック**] 列に、Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックに含まれているタスクが表示されます。
3. 各ルールをクリックすると、[**タスクの詳細**] ウィンドウで詳細情報を確認できます。

## オペレーション コンソールでの情報の表示

ここでは、Operations Manager 2007 SP1 のオペレーション コンソールについて説明し、状態およびパフォーマンス データの表示方法、管理パックのビュー、ルール、属性、およびオブジェクト検出について説明します。

### Operations Manager 2007 SP1 のオペレーション コンソールについて

オペレーション コンソールは、Operations Manager 2007 SP1 の中心的なユーザー インターフェイスで、[**監視**]、[**作成**]、[**レポート**]、[**管理**]、および [**個人用ワークスペース**] ウィンドウにアクセスできるナビゲーション ボタンがあります。

オペレーション コンソールの各ウィンドウには、それぞれ固有の用途があります。

* [**監視**] ウィンドウは、監視データの表示に使用され、問題点の追跡と解決を簡単に行うことができます。このウィンドウを使用して、監視環境のヘルス状態を表示し、アラートに対処できます。このウィンドウには、Operations Manager 2007 SP1 によって収集された監視データのさまざまなビューが表示されます。
* [**作成**] ウィンドウは、管理パック オブジェクト (モニター、ルール、タスクなど)、分散アプリケーション、グループ、および管理パック テンプレートの構成に使用されます。
* [**レポート**] ウィンドウは、既定のレポートや管理パック固有のレポートの表示と、レポートの保存およびスケジュールに使用されます。
* [**管理**] ウィンドウは、Operations Manager 2007 SP1 の設定の編集や、多数の機能の実行 (管理パックのインポートと作成、管理パックのカスタマイズなど) に使用されます。
* [**個人用ワークスペース**] ウィンドウは、オペレーション コンソールの表示方法のカスタマイズに使用されます。

オペレーション コンソールの詳細については、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb381361.aspx> にある Operations Manager 2007 SP1 のオンライン ヘルプの「Operations Console in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 のオペレーション コンソールに関するページ)」を参照してください。

### [監視] ウィンドウでの状態およびパフォーマンス データの表示

オペレーション コンソールの [監視] ウィンドウには、SharePoint Foundation 2010 環境の状態とパフォーマンスをチェックできる、さまざまなビューが用意されています。ここでは、管理パックのビューについて説明します。また、[**監視**] ウィンドウでのビューの選択方法、アラートやイベントに関する詳細情報の入手方法、およびカスタム ビューの作成についても説明します。

#### Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのビュー

管理パックには、次のビューがあります。

|  |  |
| --- | --- |
| ビュー名 | 説明 |
| ダイアグラム ビュー | SharePoint Foundation 2010 ファーム グループのダイアグラム ビューです。 |
| アクティブなアラート | アクティブになっている SharePoint Services アラートをすべて表示します。 |
| イベント | SharePoint Services オブジェクトに関して収集されたイベントをすべて表示します。 |
| 管理 | SharePoint ファームの検出および監視の構成作業を実行する管理タスクのためのエントリ ポイントです。 |
| ファーム | SharePoint ファームの状態を表示します。 |
| サーバー | SharePoint Server の状態を表示します。 |
| サービス | SharePoint Service の状態を表示します。 |
| Web アプリケーション | SharePoint Web アプリケーションの状態を表示します。 |
| 共有サービス | SharePoint Service アプリケーションの状態を表示します。 |
| タスクの状態 | SharePoint のタスクの状態を表示します。 |
| パフォーマンス | SharePoint Services オブジェクトのパフォーマンス ビューを Operations Manager 2007 コンソールに表示します。 |
| 構成データベース | SharePoint Services 構成データベースの状態を表示します。 |
| コンテンツ データベース | SharePoint Services コンテンツ データベースの状態を表示します。 |
| SPHA ルール | SharePoint Health Analyzer (SPHA) ルールの状態を表示します。 |
| サービス フロント エンド | SharePoint Web サーバーの状態を表示します。 |
| 不明なコンピューター | 認識できない SharePoint コンピューターの状態を表示します。 |

procedure_ddビューを選択するには:

1. オペレーション コンソールの [監視] ウィンドウで、[監視] を展開します。
2. **Microsoft SharePoint Foundation 2010** 管理パックを展開します。
3. ビューをクリックします。

procedure_dd特定のアラートまたはイベントの詳細情報を表示するには:

1. オペレーション コンソールの [監視] ウィンドウで、[監視] を展開します。
2. Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックを展開します。
3. [**アラート**] または [**イベント**] ビューをクリックします。
4. [**アラート**] または [**イベント**] ウィンドウで、アラートまたはイベントをクリックします。[**アラートの詳細**] または [**イベントの詳細**] ウィンドウに、アラートまたはイベントの詳細情報が表示されます。
5. [**アラートの詳細**] または [**イベントの詳細**] ウィンドウで、アラートを生成したルールまたはイベントを収集したルールの名前をクリックします。

ルールを生成するための [**プロパティ**] ダイアログ ボックスが開きます。アラートまたはイベントの原因と解決方法など、ルールに関する情報が表示されます。

1. [**プロパティ**] ダイアログ ボックスで、[**製品ナレッジ**] タブをクリックします。リンクをクリックして製品についての情報を参照します。

詳細については、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb381272.aspx> にある Operations Manager 2007 SP1 のオンライン ヘルプの「Views in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 のビューに関するページ)」を参照してください。

#### カスタム ビュー

環境に応じてカスタム ビューを作成できます。カスタム ビューの作成については、Operations Manager 2007 SP1 のオンライン ヘルプの次のトピックを参照してください。

* Operations Manager 2007 で状態の表示を作成する方法   
  (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb381457.aspx>)
* ダイアグラムの表示を作成する方法   
  (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309701.aspx>)
* 表示を個人用に設定する方法   
  (<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb309591.aspx>)

### [作成] ウィンドウでの管理パックのビューの表示

管理パックのルールは、オペレーション コンソールの [**作成**] ウィンドウに表示されます。このウィンドウでは、特定のビューのプロパティ (条件、表示設定など) を確認できます。これらのプロパティ情報を利用して、ビューをカスタマイズしたり、同様の特性を持つ別のビューを作成したりすることができます。

**管理パックのビューを表示するには:**

1. オペレーション コンソールで、[**作成**] をクリックします。
2. [**作成**] ウィンドウで、[**管理パック オブジェクト**] を展開して、[**表示**] をクリックします。[**表示**] ウィンドウにビューが表示されます。
3. [**管理パック**] 列に、管理パックに含まれているビューが表示されます。
4. 各ビューをクリックすると、[**詳細の表示**] ウィンドウで詳細情報を確認できます。
5. [**アクション**] ウィンドウの [**プロパティ**] をクリックすると、ビューのプロパティが表示されます。

ビューの詳細については、このガイドの「[監視] ウィンドウでの状態およびパフォーマンス データの表示」を参照してください。

### [作成] ウィンドウでの管理パックのルールの表示

管理パックのルールは、オペレーション コンソールの [**作成**] ウィンドウに表示されます。このウィンドウでは、無効または変更するルールを見つけることができます。ルールの変更および無効化の詳細については、このガイドの「Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのオプションの構成」を参照してください。

procedure_dd管理パックのルールを表示するには

1. オペレーション コンソールで、[**作成**] をクリックします。
2. [作成] ウィンドウで、[**管理パック オブジェクト**] を展開します。
3. [**ルール**] ノードをクリックします。[ルール] ウィンドウにルールが表示されます。
4. [Operations Manager] ツール バーで、[**スコープ**] をクリックします。[**管理パック オブジェクトのスコープ設定**] ダイアログ ボックスが開きます。
5. [**すべてクリア**] をクリックして、既存の選択項目をクリアします。
6. [**検索対象**] ボックスに「Microsoft SharePoint Foundation 2010」と入力します。
7. [**すべて選択**] をクリックします。
8. [**OK**] をクリックします。
9. [**ルール**] ウィンドウで、ルールをクリックします。[**ルールの詳細**] ウィンドウにルールの詳細情報が表示されます。
10. [**ルールの詳細**] ウィンドウで、[**ナレッジの表示**] リンクをクリックして、ルールの [**プロパティ**] ダイアログ ボックスを開きます。

### [作成] ウィンドウでの管理パックのオブジェクト検出の表示

Operations Manager 2007 SP1 では、管理パックに定義されているオブジェクトの種類に基づいて、ネットワーク上で監視する必要がある特定のオブジェクトの検出に、オブジェクト検出を使用します。管理パックの開発者には、実際のネットワーク環境にどのようなオブジェクトが存在するかわからないため、監視するオブジェクトの種類のみが定義されています。ただし、管理パックで監視する特定のオブジェクトを検出できるように、オブジェクト検出を含めています。

詳細については、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb381270.aspx> にある Operations Manager 2007 SP1 のオンライン ヘルプの「Object Discoveries in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 のオブジェクト検出に関するページ)」を参照してください。

表 6 に、この管理パックに含まれているオブジェクト検出を示します。

表 6. Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのオブジェクト検出

|  |  |
| --- | --- |
| **オブジェクト検出の名前** | **説明** |
| **SPService の Admin Service** | 特定のファームの SPService の Admin Service。 |
| **SPServiceInstance 内の Admin Service** | 特定のサーバーの SPServiceInstance の Admin Service。 |
| **共有サービスの基本クラス** | 共有サービスの基本クラス。 |
| **Business Data Connectivity Service App データベース** | Business Data Connectivity Service Application のデータベース。 |
| **Business Data Connectivity Service インスタンス** | Business Data Connectivity Service のインスタンス。 |
| **SPServiceInstance 内の CentralAdmin Service** | 特定のサーバーの SPServiceInstance の CentralAdmin Service。 |
| **共有サービスのデータベース基本クラス** | 各種共有サービスのデータベース関連クラスの抽象クラス。 |
| **SPServiceInstance の Help Search Service** | 特定のサーバーの SPServiceInstance の Help Search Service。 |
| **Search Service** | 特定のファームの SPService の Search Service。 |
| **Search Service インスタンス** | 特定のサーバーの SPServiceInstance の Search Service。 |
| **Business Data Connectivity Shared Service** | Business Data Connectivity の共有サービス。 |
| **Business Data Connectivity アプリケーション** | Business Data Connectivity アプリケーションの共有サービス アプリケーション。 |
| **SharePoint コンポーネント** | これは、特定の SharePoint コンポーネントのインスタンスの 1 つです。 |
| **SharePoint 構成データベース** | SharePoint 構成データベースには、ファームのすべての構成情報が格納されます。 |
| **SharePoint コンテンツ データベース** | これは、SharePoint コンテンツ データベースの 1 つで、1 つまたは多数のサイトの実際のコンテンツが格納されます。 |
| **SharePoint コンテンツ データベース コレクション** | このコレクションには、SharePoint ファーム内のすべてのコンテンツ データベースが含まれます。 |
| **SharePoint データベース** | SharePoint データベースの基本クラス。 |
| **SharePoint ファーム** | SharePoint ファーム グループのファームの 1 つ。 |
| **SharePoint ファーム グループ** | Microsoft SharePoint Foundation 2010 Beta のファーム グループ。 |
| **SharePoint Server** | SharePoint Server。 |
| **SharePoint Server グループ** | SharePoint ファームのサーバー グループ。 |
| **SharePoint Service** | これは、特定の SharePoint Service のインスタンスの 1 つです。 |
| **SharePoint Service インスタンス** | これは、特定の SharePoint Servce インスタンスのインスタンスの 1 つです。 |
| **SharePoint Service グループ** | このグループには、SharePoint Foundation 2010 のサービスがすべて含まれます。 |
| **SharePoint 共有サービス アプリケーション** | 共有サービス アプリケーション インスタンス。 |
| **SharePoint 共有サービス グループ** | このグループには、ファームの共有サービスがすべて含まれます。 |
| **SharePoint タイマー ジョブ** | これは、特定のサービスまたはサービス アプリケーションのタイマー ジョブです。 |
| **SharePoint タイマー ジョブ インスタンス** | これは、特定のコンピューター上の SharePoint タイマー ジョブ インスタンスの 1 つです。 |
| **SharePoint アプリケーションおよびトポロジ アプリケーション** | アプリケーションおよびトポロジ アプリケーションのインスタンス。 |
| **SharePoint Usage and Health Service アプリケーション** | Usage and Health Service アプリケーション のインスタンス。 |
| **SharePoint Web アプリケーション グループ** | このグループには、ファームで実行されている Web アプリケーションがすべて含まれます。 |
| **SharePoint Web アプリケーション インスタンス** | これは、SharePoint Web アプリケーションのインスタンスです。 |
| **SPHA 可用性ルール** | SharePoint ファームで定義された SharePoint Health Analyzer (SPHA) 可用性ルール。 |
| **SPHA 構成ルール** | SharePoint ファームで定義された SharePoint Health Analyzer (SPHA) 構成ルール。 |
| **SPHA カスタム ルール** | SharePoint ファームで定義された SharePoint Health Analyzer (SPHA) カスタム ルール。 |
| **SPHA パフォーマンス ルール** | SharePoint ファームで定義された SharePoint Health Analyzer (SPHA) パフォーマンス ルール。 |
| **SPHA ルール** | これは、SharePoint ファームで定義された SharePoint Health Analyzer (SPHA) ルールです。 |
| **SPHA ルール グループ** | これは、SharePoint ファームの SharePoint Health Analyzer (SPHA) ルール グループです。 |
| **SPHA ルール サブ グループ** | これは、SharePoint ファームの SharePoint Health Analyzer (SPHA) ルール サブ グループ (一部またはすべて) です。 |
| **SPHA セキュリティ ルール** | SharePoint ファームで定義された SharePoint Health Analyzer (SPHA) セキュリティ ルール。 |
| **システム タイマー ジョブ ホスティング オブジェクト** | これは、各種システム タイマー ジョブの監視対象となるオブジェクトです。 |
| **SPService の Timer Service** | 特定のファームの SPService の Timer Service。 |
| **SPServiceInstance の Timer Service** | 特定のサーバーの SPServiceInstance の Timer Service。 |
| **SPServiceInstance 内の Application and Topology** | 特定のサーバーの SPServiceInstance 内の Application and Topology Service。 |
| **Application and Topology 共有サービス** | Application and Topology 共有サービス。 |
| **不明な SharePoint コンピューター** | SharePoint コンピューターとして認識できなかったすべてのコンピューター。 |
| **不明な SharePoint Server** | このグループには、Microsoft SharePoint Foundation 2010 がインストールされているが、未構成または正常に機能していないサーバーが含まれます。 |
| **SPServiceInstance の Usage Service** | 特定のサーバーの SPServiceInstance の Usage Service。 |
| **Usage 共有サービス** | Usage 共有サービス。 |
| **SPService 内の Sandboxed Code Service** | 特定のファームに関する SPService 内の Sandboxed Code Service。 |
| **SPServiceInstance 内の Sandboxed Code Service** | 特定のサーバーに関する SPServiceInstance 内の Sandboxed Code Service。 |
| **SPService の Web サービス** | SPService の Web サービス。 |
| **SharePoint オブジェクト グループ** | このグループには、Microsoft SharePoint Foundation 2010 オブジェクトがすべて含まれます。 |
| **SPWebApplication 内の SharePoint サイト** | Web アプリケーション内の SharePoint サイト。 |
| **SPWebApplication 内の SharePoint サイト コレクション** | Web アプリケーション内の SharePoint サイト コレクション。 |
| **SharePoint Web アプリケーション** | SharePoint Web アプリケーション。 |
| **SPWebApplication 内の Web アプリケーション ホスト インスタンスのコレクション** | Web アプリケーションの SharePoint ホスト インスタンス コレクション。 |
| **SPWebApplication 内の Web アプリケーション ホスト インスタンス** | Web アプリケーションの SharePoint ホスト インスタンス。 |
| **SPService 内の Incoming E-mail Service** | SPService 内の Incoming E-mail Service。 |
| **Trace Service インスタンス** | SPServiceInstance 内の Trace Service インスタンス。 |
| **Incoming Email Service インスタンス** | SPServiceInstance 内の Incoming Email Service インスタンス。 |
| **SharePoint Foundation 2010 インストール サーバー** | SharePoint Foundation 2010 がインストールされているコンピューター。 |
| **Security Token Service インスタンス** | SPServiceInstance 内の Security Token Service インスタンス。 |
| **Security Token Service アプリケーション** | SPSharedServiceApplication 内の Security Token Service アプリケーション。 |
| **SPSharedService 内の Security Token Service** | SPSharedService 内の Security Token Service。 |

procedure_ddこの管理パックのオブジェクト検出を表示するには:

1. オペレーション コンソールで、[**作成**] をクリックします。
2. [**作成**] ウィンドウで、[**管理パック オブジェクト**] を展開し、[**オブジェクト検出**] をクリックします。検出されたオブジェクトが [**オブジェクト検出**] ウィンドウに表示されます。[**管理パック**] 列に、管理パックに含まれているオブジェクト検出が表示されます。
3. 検出されたオブジェクトをクリックすると、[**オブジェクト検出の詳細**] ウィンドウに詳細情報が表示されます。

# Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックのレポートの使用

管理パックのレポートを使用すると、環境の状況を日単位、週単位、または月単位で調べることができます。このセクションの内容は次のとおりです。

* 管理パックのレポートの選択方法について説明し、レポートの例を示します。
* 管理パックに含まれるレポートをすべて示します。
* 各レポートの用途とデータ収集ルールについて説明します。

## レポートの選択

procedure_dd管理パックのレポートを選択するには:

1. オペレーション コンソールで、[**レポート**] をクリックします。
2. [**レポート**] を展開します。
3. [**Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パック**] をクリックします。
4. [**レポート**] ウィンドウで、レポートをクリックし、[**開く**] をクリックします。
5. 選択したレポートのパラメーターが表示されたダイアログ ボックスが表示されます。

メモ

レポートのパラメーターの選択方法については、このガイドで説明する範囲を越えています。レポートのパラメーターの選択方法の詳細については、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb381183.aspx> にある Operations Manager 2007 SP1 のオンライン ヘルプの「How to Run a Report from the Reporting Pane in Operations Manager 2007 SP1 (Operations Manager 2007 SP1 の [レポート] ウィンドウからレポートを実行する方法に関するページ)」を参照してください。

1. レポートのパラメーターを入力したら、ツール バーの [**実行**] をクリックしてレポートを実行します。

選択したデータのグラフと、データの収集ルールが表示されます。

## レポートの説明

Microsoft SharePoint Foundation 2010 管理パックには、次のレポートがあります。

|  |  |
| --- | --- |
| サーバーのアラート | このレポートは、指定したサーバーで発生したアラートをすべて表示します。 |
| サービスのアラート | このレポートは、指定したサーバーで発生したアラートをすべて表示します。 |
| サーバーのイベント | このレポートは、指定したサーバーで発生したイベントをすべて表示します。 |
| サービスのイベント | このレポートは、指定したサービスで発生したイベントをすべて表示します。 |
| トップ サーバー イベント | このレポートは、指定したサーバーで発生した上位 20 件のイベントを表示します。 |
| トップ サービス イベント | このレポートは、指定したサービスで発生した上位 20 件のイベントを表示します。 |
| トップ アラート | 最もよく発生するアラートを示すこのレポートは、発生数の多いアラートを特定したり、アラートの総数や解決までの時間に個々のアラートがどの程度影響しているかを調べたりするのに役立ちます。アラートのチューニングを行う場合に便利なレポートです。 |
| サーバーのパフォーマンス | このレポートは、指定したサーバーのパフォーマンス データを表示します。 |
| エンティティ状態 | このレポートは、指定した SharePoint オブジェクトに関するエンティティの状態の経時変化を表示します。 |